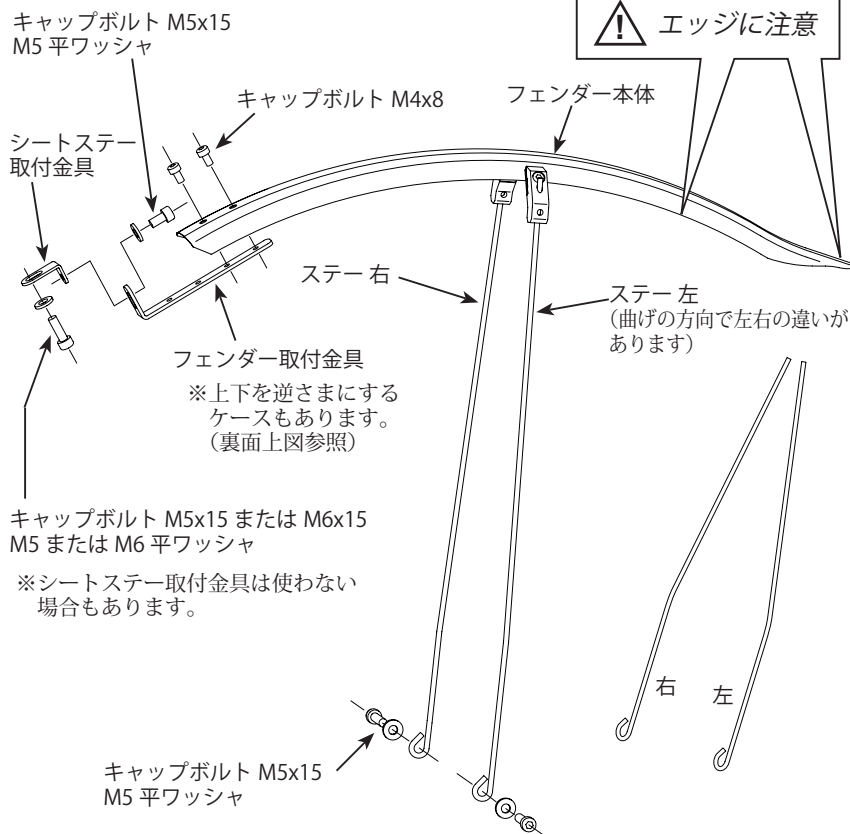


## リア用

「KODACHI / 小太刀」は、DYK シリーズのショートサイズ版として開発された自転車用フェンダー（泥除け）です。  
一般的なフェンダーは再資源化が難しい樹脂素材でできたものが多い中で、DYK シリーズはリサイクルが容易な素材のみを使用した環境にやさしいモデルです。

## 部品明細



## 適合ホイールサイズ

26 ～ 28 インチ または 650c ～ 700c

## フェンダー幅

50 ミリ (これより太いタイヤには適合しません)

## 内容一覧

## &lt;本体側&gt;

フェンダー本体	・・・	1
ステー (右)	・・・	1
ステー (左)	・・・	1
フェンダー止めベース・受け板・		
ホーローセットボルト M4x3	・・・	2
キャップボルト M4x10	・・・	2

## &lt;袋部品 1&gt;

フェンダー取付金具	・・・	1
シートステー取付金具	・・・	1
キャップボルト M4x8	・・・	2
キャップボルト M5x10	・・・	1
キャップボルト M5x15	・・・	3
キャップボルト M6x15	・・・	1
M5 平ワッシャ	・・・	4

## &lt;袋部品 2&gt;

2 ミリ六角レンチ (M4 ホーロー用)	
3 ミリ六角レンチ (M4 キャップボルト用)	
4 ミリ六角レンチ (M5 キャップボルト用)	

※ M6 キャップボルト用の六角レンチは  
同梱されておりません。

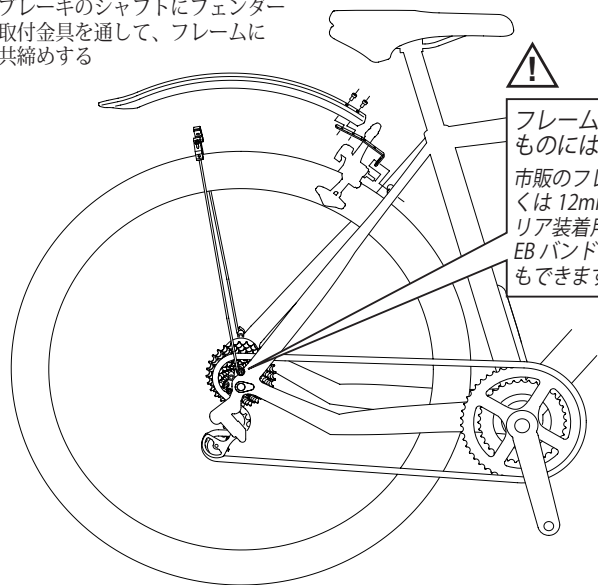
## 装着および使用上の注意

- 本商品は回転する車輪のすぐ近くに装着する部品となりますので、正しい装着がされていないと、走行中に車輪に巻き込んだりして大変危険です。  
またフレームやシートステーの形状、リアブリッジの有無、ブレーキの種類等により本商品が装着できない場合もあります。  
装着は自転車に関する整備上の一般的な知識および技能を有する方（販売店や整備業者）に依頼してください。  
それ以外の方が装着を行なった場合の不具合や被った損害等については弊社ではその責任を負いかねますので、あらかじめご承知おきください。
- 走行前には必ず、本商品が確実に固定されていることを確認してください。
- 本商品が車体や乗り手（特に足）、キャリア等に搭載した荷物に当たらないことを確認してください。
- 走行中に無造作に搭載したバッグ等が当たったりフェンダーが足などで押されたりすると、フェンダーが変形し意図せず車輪に巻き込まれたりするので危険です。気をつけてください。
- ステーの長さを調節するため先端をカットする際は適切な工具を使用して行なってください。ニッパーやペンチでは切れません。クリッパーの使用をお勧めします。
- 先端は切りっぱなしでは尖っていて非常に危険ですので、必ず削って安全に丸めてください。  
作業は平ヤスリでは材質的に困難なので、ステー単体にしてグラインダーを使用することをお勧めします。
- 使用中にもし異常を感じた場合はすぐに使用を中止して、装着を行なった整備士にご相談ください。

## 取り付け方

### 【キャリパブレーキに共締めする方法】

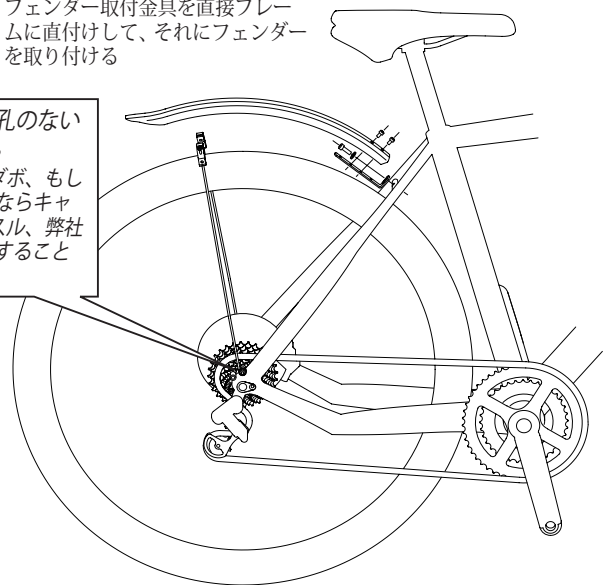
ブレーキのシャフトにフェンダー取付金具を通して、フレームに共締めする



- ① いったんリアのキャリパブレーキを取り外します。
- ② キャリパブレーキのピボットシャフトにフェンダー取付金具を通し、キャリパブレーキをもう一度装着します。ブレーキアームの動きが金具で阻害されないことを確認してください。

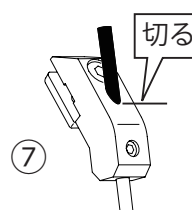
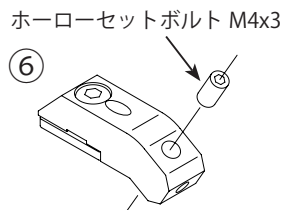
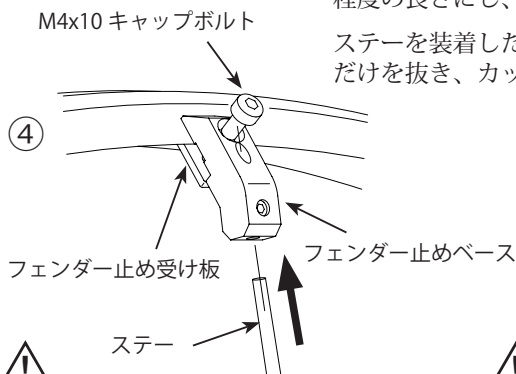
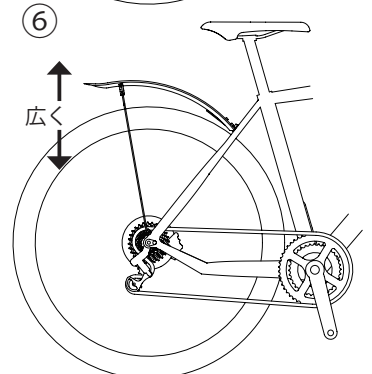
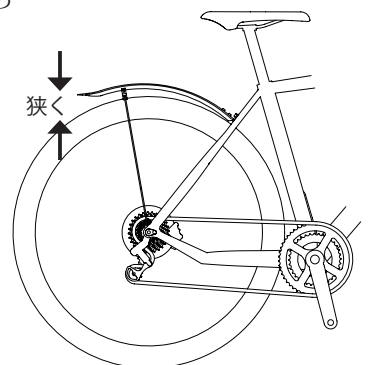
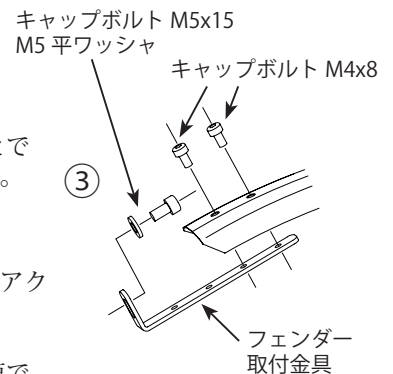
### 【フレームブリッジに直付けする方法（ディスクブレーキ車）】

フェンダー取付金具を直接フレームに直付けして、それにフェンダーを取り付ける



- ① フェンダー取付金具をフレームのリアブリッジ部の孔にキャップボルト M5x15 で止めます。
- ② ブリッジの孔が下を向いているときは、シートステー取付金具を先にキャップボルト M5x15 または M6x15 で取り付け（前ページ参照）、それにフェンダー取付金具を取り付けます。

- ③ フェンダーをキャップボルト M4x8 2本でフェンダー取付金具に止めます。
- ④ フェンダーの縁をフェンダー止めベースとフェンダー止め受け板とで挟み込んでから、キャップボルト M4x10 を締め込んで保持します。ステーをフェンダー止めベース下側の孔から挿し込みます。
- ⑤ ステーの根本部をキャップボルト M5x15 でフレーム後端部（後輪アクスル）付近のダボ孔に止めます。
- ⑥ フェンダーとタイヤとの間隔は右図のようにステーの長さ調整次第で狭くも広くもできます。ステーはホーローセットボルト M4x3 を締めて横から押さえる形で保持します。
- ⑦ このときステー先端がフェンダー止め金具から飛び出していると危険なので、先端はできるだけ短くカットします。少なくとも M4x10 キャップボルトを回すのに邪魔にならない程度の長さにし、カットラインを油性ペンなどでマークします。ステーを装着したままだと作業が困難なため、いったんステーだけを抜き、カットと研磨をしたあと再び戻します。



フェンダーやベースは決してタイヤと接触させないように位置決めしてください。フェンダーが走行中に車輪に巻き付くと、急制動がかかったことになり前転してしまうなど非常に危険になります。

カットしただけでは先端が尖っていて危険ですので、安全のため削って滑らかにします。ただし材質（ステンレス）的にやすりでは難しいので、グラインダーの使用をお勧めします。